

令和 7 年 議案第 2 5 号

令和 7 年度教育委員会点検評価報告書（令和 6 年度実績）について
上記の議案を提出する。

令和 7 年 8 月 1 9 日提出

みよし市教育委員会

教育長 増 岡 潤一郎

説 明

この案を提出するのは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表する必要があるからである。

令和7(2025)年度(令和6年度実績)みよし市教育委員会点検評価報告について

【作成趣旨】 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第1項の規定に基づき、教育委員会の事務等について点検及び評価を行い、その報告書を議会に提出し、公表する。

【構成】

第1章	教育委員会点検評価報告の概要
第2章	教育振興基本計画における各事業の実施状況
第3章	教育委員会の活動等に関する事業実施状況報告
第4章	学識経験者による意見
第5章	今後の方針

【附註】

1. 20の作戦Plus One（重点施策）の実施状況報告

【子ども】	「みんな」で育てるみよしっ子」の充実と周知啓発	
R6 取組	学校と家庭・地域が共に育てていくという「共育・協育」の理念を啓発するチラシ「みんな」で育てるみよしっ子を就学時随時所に配布したり、HPにリンクする二次元ペーパーが載った案内文書を保育園・幼稚園保護者に配布したりした。	
成果指標	「みんな」で育てるみよしっ子」を知っている割合 (みよしの教育に関するアンケート(市民・保護者))	基準年(R2) 市民 70% 保護者 70%
【子ども】	「みんな」で育てるみよしっ子」を知っている割合 (みよしの教育に関するアンケート(市民・保護者))	基準年(R2) 市民 70% 保護者 70%
R6 取組	多様化して子育て相談の需要に対応するために、関係各課と連携し、相談体制のさらなる充実を図った。今後は、ニーズに対応した企画を立案し周知を図っていくとともに、子育て総合支援センターと教育支援センターの相談員の連携を図っていく。	目標(R7)
成果指標	気軽に相談できる人、場所がある人の割合(基準前) (子ども、子育て支援ニーズ調査)	基準年(H130) R6 91.7% 令和5年度推定値 R6 88.4% 95%
R6 取組	放課後児童クラブにおける子育て支援の拡充	
R6 取組	放課後児童クラブの募集時期を工夫し、放課後子ども教室の時間と連携を図って特機児童解消を目指した。また、放課後子ども教室を市内全小学校に拡大し、地域の参画を得たために、子育て総合支援センターと教育支援センターの相談員の連携を図っていく。	目標(R7)
成果指標	放課後児童クラブの利用児童数 (学校教育課調べ)	基準年(R2) 602人 R6 667人 640人
R6 取組	家庭の教育力向上のための啓発活動の推進	
R6 取組	「広域みよし」だけでなく、アブリ(みよし)でも「家庭教育だより」はぐくみの記事を提供し、家庭の教育力向上に向けて広報・啓発を図った。広報と連携し、「家庭教育だより」はぐくみの掲載回数、掲載ページ等の検討をした。	目標(R7)
成果指標	広域の家庭教育だよりを読んでいる保護者の割合 (みよしの情報化の政策等に関する調査)	基準年(R1) R4 41% R6 24% 70%
R6 取組	困難を抱える家庭に対する個別支援の充実	
R6 取組	教育支援センターでの相談時間数が増えたことで、相談員等関係者、学校、関係機関との連携の時間を確保することができ、より組織的な支援を行うことができた。また、支援の直見のため、ケース会議を定期的に行うことができた。	目標(R7)
成果指標	学校以外に相談できる公的機関を知っている保護者の割合 (みよしの教育に関するアンケート(保護者))	基準年(R1) R4 34% R6 37% 60%
R6 取組	主体的、対話的で深い学びを実現するための、教員の資質向上への取組	
R6 取組	教科領域等指導訪問、学校訪問を通じて、学習指導要領に対応した「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改革、各教科の特性に合わせた「見方・考え方」の育成を目指した授業について指導した。	目標(R7)
成果指標	「話し合い活動を通じて、自分の考えを高め、広げたり、学習意欲する児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査(小6・中3))	基準年(R2) 小6 76% 中3 76% 小6 81.3% 中3 80.0% 小6 83.0% 中3 85%
R6 取組	授業における ICT 活用の推進	
R6 取組	教育研究員がまとめた年間指導計画や実事例等例をクラウド上の市内共有プラットフォームを開発し、ICT サポートと連携して、全教員が活用できる環境を整えた。また、教員のキャリアステージに合わせた研修会を実施した。	目標(R7)
成果指標	授業にICTを活用して指導できる教員の割合 (教育の情報化の政策等に関する調査)	基準年(R2) R6 52% 75% 79% 80%
R6 取組	新たな学びを支える ICT 教育環境整備の推進	
R6 取組	中部小学校のコンピュータ室をフューチャークラスルームとして改修工事し、こどもたちの思考・判断・表現力等を高める環境を整備し、新しい空間を活用した授業を提案した。	目標(R7)
成果指標	一人1台タブレットの活用状況(週3回以上の使用率) (学校教育課調べ)	基準年(R2) R4 63% R6 61% 90%

<

R6 取組	地域や自主的サークルによる生涯学習の推進			
	学習成果の発表の場として令和5年度まで開催していた生涯学習発表会を、令和6年度は執行的にみよし市文化祭事業（令和6年10月31日から令和6年11月3日まで）に統合して開催した。また、新たにみよし音楽祭を開催した。			
成果指標	生涯学習活動を行っている団体の数（生涯学習活動動員数）	基準年(R2)	R4	R6
	動員数(団体数) (生涯学習推進課調べ)	64	52	47
R6 取組	総合型地域スポーツクラブの育成			
	中学校休日部活動の地域移行に伴い、子どもが継続してスポーツ活動が行える環境を整えるため、総合型地域スポーツクラブの運営について検討を行った。			
成果指標	総合型地域スポーツクラブで活動した人の数	基準年(R1)	R4	R6
	(スポーツ行政課調べ)	53,187人	35,959人	34,895人
R6 取組	歴史民俗資料館展示の充実			
	石器作を7月、土器型カッキー作りを8月に実施し、小学校6校と中学校1校で秋田藩藩政博物館づくり体験などを実施した。今後の資料について、歴史や市内の文化財保存状況などを踏まえて、方向性を検討した。			
成果指標	みよしの歴史に関する市民の割合（有数の陶器産地であったことを知っている）	基準年(R1)	R4	R6
	(みよしの教育に関するアンケート(市民))	34%	34%	33%
R6 取組	サンライフでの充実した図書館サービス			
	スマートフォンのアプリに利用カードを表示させ、図書館資料を借りることができるようにした。また、第4次子ども読書活動推進計画(令和4年度～令和8年度)の推進を図った。			
成果指標	「本を読むことが好き」児童生徒・市民の割合（みよしの教育に関するアンケート）	基準年(R1)	R4	R6
	小中学生 71% 市民 69%	小中学生 73% 市民 69%	小中学生 61% 市民 66%	小中学生 85% 市民 80%
R6 取組	ふるさと学習の推進			
	秋葉やアニメーションを活用することで児童の学びの可能性を広げ、深い学びへとつながるよう、令和7年度版副読本「みよし」をデジタル化した。また、初任者教員研修に「みよし」を教材とした研修を実施した。			
成果指標	「みよし」が好きな児童生徒の割合（みよしの教育に関するアンケート(小・中学生)）	基準年(R1)	R4	R6
	小93%中85%	小93%中86%	小95%中91%	小95%中90%
R6 取組	学校ポランティアをきっかけとした地域教育力の構築			
	三好中学校で地域コーディネーター(地域Co)の常駐化を目指し、研修会を積極的に行った。また、部活動の地域移行のため、全員の会話をし、休日部活動の地域移行に向けて、積極的に検討を進めた。学校支援の輪が地域の企業団体にも広がった。			
成果指標	地域Coを活用した取組（学校教育課調べ）	基準年(R2)	R4	R6
	市内中学校に地域Co配置	市内中学校に地域Co配置	市内11小中学校に地域Co配置	全小中学校に地域Co配置

2. 学識経験者による意見

- (1) 「みよし市教育振興基本計画の令和6(2024)年度実施状況めぐり成果と課題—学校教育を中心に—」
- 中部大学 教職課程センター長補佐 専任教授 武者 一弘
- ◎ 高評価を得た主な取組について
- ・「みんな」で育てるみよしっ子（共育・協育）」の理念と具体的なメッセージは、先の見通せない不確実な時代に、子どもと保護者一人一人を市全体で支えるものであり、また、教員をはじめとする専門職や市民を横につなぎ、パートナーとするものである。その認知度が、目標には達しないものの2年間で大幅に向上した。（作戦Plus One）
 - ・気軽に相談できる人・場所がある人の割合が非常に高い水準を維持しており、安心して子育てができる環境の整備が進められている。（作戦1）
 - ・相談数の増加やケース・内容の複雑化などを受け、相談時間数を増やしたことで、以前よりも相談者の求めるときに相談できる状況に近づいた。（作戦4）
 - ・主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践の成果指標「話し合う活動を通じて自分の考えを深め広げている」と実感する児童生徒の割合が小・中とも大きく伸び、高い成果を上げたと言える。（作戦5）
 - ・みよし市独自に小学校低学年30人学級を試行的に推進し、子ども一人一人への手厚くきめ細かい支援に取り組んでいる。（作戦11）
- △ 課題を指摘された主な取組について
- ・作戦1の成果指標が非常に高い数値を示しているのに対し、作戦Plus Oneの「みんな」で育てるみよしっ子」を知っている保護者の割合、作戦3の家庭教育だよりを読んでいる保護者の割合、作戦4の学校以外に相談できる公的機関を知っている保護者の割合がいずれも低い。（作戦Plus One, 1, 3, 4）

- ・学校が英語の授業で「ALT」を積極的に活用した」と回答した割合が、中学校で年々低下し、令和6年は小学校より20%低い状況である。その要因を分析する必要がある。（作戦7）
 - ・「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合が年々減少し、令和6年は過去最低となった。こどもの心を育てる教育は学校のみで効果的に実践できるものではなく、家庭・地域・学校の有機的連携によってなされる。次期計画策定時の課題となり得る。（作戦8）
 - ・「全国体力・運動能力調査の体力テストの合計点」は、令和3年以降みよしの小学男女が同時に全国平均より高かったことはなく、中学男女は全国平均を明確に下回っている。就学前の段階から運動に親しみ習慣化することが、青少年さらには成人の健康な身体づくりの上で大事となる。（作戦9、体系別実施策123、124）
- ＜次期計画策定に向けて＞
- ・子どもを伴立ちとした教員・保護者・地域の育ちあいが、今後本格化する部活動の地域移行、学級の弾力化・再編、コミュニティ・スクールの成功の力を登っている。
 - ・みよしの市のさまざまな年齢の子どもたちが、地域の人々と共にまちと自分たちの将来を重ね合わせて語り合うことを通じて、みよしの市の明るい未来が確かなものとして浮き上がり、大人たちにも見えてくる。
- (2) 「みよし市教育振興基本計画の令和6(2024)年度実施状況をめぐり成果と今後の展望
- 社会教育・生涯学習を中心に—
- 愛知教育大学 教育学部 准教授 中山 弘之
- ◎ 高評価を得た主な取組について
- ・令和6(2024)年度にはおおよそ交流センターにおける講座開催をより拡大・充実させ、順調に成果を挙げている。今後のみよし交流センターでも開催予定である。（作戦⑩）
 - ・目標には到達していないが、中学校における休日部活動の地域移行に向けて指導者・協力者の確保を進めつつある。（作戦⑩）
 - ・令和6(2024)年度に目標である市内11小中学校への地域コーディネーターの配置を達成することができた。（作戦⑩）
- △ 課題を指摘された主な取組について
- ・住民の自主的な諸活動のサポートがさらに充実できるような体制の構築、地域レベルの社会教育施設・団体と市行政やサンライフなどとの関係づくりの発展について検討が必要である。
 - ・普段から地域活動に取り組んでいる団体、サークル、公民館や自治会の施設などが課題と感じていることを援助することで地域・自治体づくりが進められるとよい。
- ＜次期計画策定に向けて＞
- ・「地域との協働による市民みんなが育つ学びの場づくり」や「地域づくり」のためには、地域住民、地域サークル、地域活動を行う団体と対話しながら、相談に応じたり、助言したりできるような社会教育職員の存在と実践が不可欠となる。本市では、それが可能となる社会教育職員の職員数、配置、力量向上の機会が確保されているか、次期計画作りの過程で検討していくことが必要である。
 - ・次期計画づくりの過程、今後の歴史民俗資料館のあり方を検討する過程において、みよしのどのような歴史をどのようにみよしのことに引き継いでいくのかを、担当者や学校の先生方が協議で考えられるとよい。
 - ・地域学校協働活動とコミュニティ・スクールのを進めるには、教職員の労働上のストレスと疲労を考慮し、教職員の本来の思いを十分に理解した上で検討を進め、現状でもできることから始めていくことが大切である。
3. 今後の方針
- 現行のみよし市教育振興基本計画のまとめの年として、今回の点検評価において、21の重点施策だけでなく347の取組すべてについて、10年間の取組の成果を振り返り、課題として挙げられた取組については、課題の要因について多面的・多角的に検討を加え、次期みよし市教育振興基本計画策定に反映させていく。また、学識経験者の武者先生、中山先生からは、具体的な問題提起をいただくことができた。これらについても、次期みよし市教育振興基本計画の策定を進めていきたい。
- 価値観の多様化や社会のグローバル化、情報化が急ピッチに進む現代において、本市のこともも大人も世代を問わず、より豊かで幸せな人生を送るために教育が果たす役割は大きい。これからも、家庭と地域、学校の協働によるみよしならではの「共育・協育」を推進していきたい。